

2 年普通科総合的な探究の時間

10月23日 フィールドワーク

10月23日(水)、2学年普通科「総合的な探究の時間」フィールドワークが行われました。これまで、自分たちのテーマについて先行研究を調査したり、校外の方にインタビューをしたり、仮説を立てたりして、問題解決のためにさまざまな活動を続けてきました。今回のフィールドワークでは、校外で調査や取材を行うグループ、校内で調理や実験を行うグループに分かれて活動しました。校外で活動したグループの中には、北は和歌山市や岩出市、南は那智勝浦町や白浜町と遠方まで足を運んだグループもあれば、美浜町や日高川町、御坊市など近隣で活動を行ったグループもありました。どのグループも今後の考察につながるような収穫が得られたようです。各分野から、フィールドワーク振り返りの一部を紹介します。

フィールドワークで学んだこと ～振り返りシートより～

地域と文化

安居の渡し船の主な問題は「船の管理」、「資金問題」、「後継者問題」。木造の船が壊れて作り手がなくなったら、プラスチック製の船しか残っていない。テレビ番組の取材がたくさん来るから、宣伝はできている。今年は20周年記念で観光客は増えているのでチャンス。毎日営業するには最低15名のスタッフが必要だが、現状は5名しかいない。中学生や高校生のボランティアを呼びかけているが、なかなか集まらない。都会から体験しに来る人はいるが、地方ではこどもがいない。このように、資金不足と後継者不足が深刻であり、これからどうしていくかが問題。



伊藤農園さんと早和果樹園さんに行った。2つのお店は共にミカンを中心に扱っていて、商品のことをすごく大事に思っていることが伝わって感動した。SDGsへの取り組み方やSNSを使った商品の広め方も似ていた。しかし、同じ材料を使っているのに、味が全然違っていて各社のこだわりが感じられた。売り場が和風であることは共通していたが、雰囲気は全然違っていた。伊藤さんにはカフェがあり、早和さんには試食があるなど、同じ物を同じ地域で売る場合でも大きな違いがあって面白かった。

地域と産業



JA では家庭選別後のみかんを機械で判別し、腐っているみかんを大量に廃棄している。廃棄するみかんには、ミカンサビダニによるものや、日に焼けて皮が固くなったことによるものなど様々な原因があるということがわかった。みかんの皮を使って作ったみかん水は油性ペンのインクを落とすことができるはずだったが、あまり落ちなかった。その原因として、南海加工で頂いたみかんの皮には石灰が混ざっていたことが考えられた。また、みかんを煮るのにとても時間がかかってしまったので、みかんの皮は細かくして煮た方が良かったと思った。

白浜町役場を訪問して一番感じたことは何よりも観光業に力を入れていることだ。コロナの影響もあり、観光客の数が減少しているようだ。直接、担当の方とお話させていただき、砂浜のライトアップや旅行客へのクーポン発券など様々な集客方法があることに驚いた。また、シルバー人材センターのスタッフを雇い、白良浜の環境保全を行っているようだ。インターネットで調べてもわからない情報をたくさん聞けてよかった。フィールドワークで聞いたことを煙樹ヶ浜についての探究活動に生かし、ゴミを減らすなど環境保全を考えていきたい。



地域と防災



防災学習センターに行って、VR 体験をした。地震体験ではいろいろな物が落ちてきたので、家具などの固定が大切だと改めて気づいた。火災体験では火はすぐに燃え広がって通れなかったり、ドアが開けられなかったりしたので、非常出口を確認したり、焦らず姿勢を低くしたりして避難することが大事だとわかった。津波のシミュレーションを見て、第一波は御坊には13分ほどで到着することを知って、避難経路や避難場所の確認をしなければならないと思った。災害が起こったら、学生にもできることがあると思うので、率先して行動する力が必要だと思った。



私たちは防災に関する知識をさらに深めるために、日高川町防災センターを訪れた。まず、職員の方に地震時にとるべき行動や地震後の二次災害について質問させてもらい、初めて知ったこともあったので、質問しに行って良かった。和歌山で起きた水害や地震の写真が展示されていて、南海トラフでは被害がもっとひどくなるだろうと思うと、とても不安になった。水圧がかかったときのドアの重さを体験できる装置があり、水深 20 センチまではなんとか開けることができたが、30 センチの水深ではドアはびくともしなくて、こんなに水深が低くても危険なのだと思った。



国際社会と地域



「きのくにこども NP0」という子育て支援を行っている非営利団体を訪問し、子育てや少子化に関する現場の声を直接聞くことができた。田中さん自身ももとは子育て支援施設「ぐるんぱ」の利用者で、子育て支援に携わりたくてここで働くようになったそうだ。帰り道、「もし将来家の近くにこんな施設があったら、安心してこども産めるよなあ」という話になったので、少子化対策と子育て支援はやはり深く関わっていると思った。今回、子育ての悩みやもっと必要な支援について直接詳しく聞くことができたので、それを参考にして、少子化対策について考えていこうと思った。



デンマークの高校生への子育てに関するアンケート結果から、結婚観や子育て観の日本との違いが顕著に表れていて驚いた。ほとんどの人が結婚や子育てに関して前向きな回答をしていたのが印象的だった。結婚せずにこどもを持つことに対して、日本ではマイナスなイメージが大きいのが、デンマークではポジティブなイメージがあるとうわたり、驚いた。



フェアトレード商品のチョコを使って作ったガトーショコラとクッキーはデンマークの生徒にもおいしいと言ってもらえた。フェアトレード商品を使っても材料費があまりかからなかったことを踏まえると、フェアトレード商品を選ぶ方がよいということが言える。反省点は、もう少し計画性を持ってフィールドワークを実行すれば良かったということだ。また、誰がどのスイーツを担当するか、誰がどの材料を買い出しに行くか、誰が小皿などを100円ショップで買うかなど、役割分担を事前にしていなかったから、時間に無駄が出てしまった。調理をするときに、ガトーショコラとクッキーの2班に分かれたが、何人かはやる事がなくなってしまった。次回からはフィールドワークで得た結果と考察をもとに、もっと計画性を持たせて、グループで連携を取っていききたいと思った。



フィールドワークの日にはデンマークの姉妹校フレデリクスハウ森高校の生徒が来校していたため、いくつかのグループがいっしょにフィールドワークを行いました。四つ太鼓を制作していっしょに担いだ班やいっしょに調理実習を行った班など、通常の授業とは違った体験を通して交流を深めることができたようです。フィールドワークからさまざまな調査結果を得て、これから考察・結論へと進んでいきます。総合的な探究の時間はいよいよ大詰めです。今月は発表ポスター作成にも着手しています。

1月21日(火)の成果発表会〈分科会〉と2月7日(金)の成果発表会〈全体会〉が実り多きものになるよう、各グループの地道な探究活動は続きます。